



「美しい学校」いつものこと ～そう言える子どもたちに～

サッカーワールドカップの素晴らしいプレーや手に汗を握るゲームの展開に、時間を忘れて見入ってしまったのは、私だけではないと思います。一流の選手のプレーは見る者の心をつかみます。スポーツの醍醐味を味わうことができ、ワールドカップ開催のこの時がいつまでも続いてほしいなという気持ちになっております。

さて、先週の7月7日土曜日の朝日新聞朝刊に『世界称賛 美しいロッカー「いつものこと」』とありました。決勝トーナメント1回戦でベルギーに惜しくも負けてしまった日本チームのロッカールームが、試合前のようにきれいに掃除され、「スパシーバ（ありがとう）」とロシア語で書かれたメモが残されていたことが、メディアで称賛されたことを取り上げたものです。新聞には以下のように書かれておりました。

主将のMF長谷部は帰国後、「スタッフの方々が毎試合、全てきれいに片付けて帰ってくれた」と感謝の言葉を口にした。とはいえ、これはベルギー戦に限ったことではない。代表スタッフの一人が「いつもやっていることですから」と明かす。選手が帰りのバスに乗り込んだ後、用具担当とトレーナーらが掃除を開始する。掃除はそんなに大変なことではない。日本の選手たちは、ゴミが出ればきちんとゴミ箱に捨てるからだ。

日本チームのサポーターがスタジアムのゴミ拾いをする光景にも共感を呼びましたが、こういう心づかいや感謝の心が、日常的に言葉や行動で表現されることが素晴らしいと思います。

本校では給食後、休憩を経て掃除の時間が設けられています。子どもたちは各分担当場所へ行き、担当の先生の指導の下、掃除をしています。担当の先生から話を聞いてみますと、子どもたちは、一生懸命掃除をしているとのこと。中には「ほかにも掃除をするところはありませんか。」「この床が汚れていたから掃除をしておきました。」などと、積極的に掃除をしようとする子どももいるとの話です。使ったら元通りにする、またはそれ以上に美しくしておく。次に使う人のために、美しく整理整頓しておく。そういった心を育みたいものです。

保健室の入り口に次のような言葉が書かれています。

「はきものをそろえると 心がそろう」

この言葉の後、「心がそろうと はきものもそろう」と続いています。学級の靴箱でも、下靴や上靴の置き方がきれいな人が多く見受けられます。担任の指導もあるでしょうが、普段から家庭でも玄関の靴をそろえていることもあるのではないかと思います。

本校の子どもたちは、思いやりのある優しい心の持ち主ですが、掃除の活動や普段の生活場面を通して、人への心づかいや感謝の心も育まれつつあります。『美しい学校』いつものことと言える、そんな子どもたちに成長できるよう、心の育みに取り組んでいきたいと思っております。